

研究タイトル	草地管理差と直翅類群集の応答 ～植生構造を介した群集変化～
要旨	<p>本研究は、草地のごく狭い空間スケールにおける植生構造及び直翅類群集に対して、局所的管理（草刈り頻度）の差が与える影響について調査した。本調査は同一群落内における草刈り頻度の異なる畦畔を対象に、コドロード法による植生調査、7回のスウィーピング採集及び土壌・微気象の簡易測定を実施した。植生調査の結果、高頻度草刈り地では低草丈かつ多様な種組成であったに対して、低頻度草刈り地では高草丈かつ特定の種の優占傾向が見られた。直翅類の総採集個体数は、高頻度草刈り地で187個体、低頻度草刈り地で167個体であった。シャノンの多様性度指数を用いた結果、種組成には明瞭な段間差が認められた。代表例としてヒメギスは5段目に強く偏在し（5段目82個体、1段目7個体）、一方でヒシバッタ科やオンブバッタは1段目で相対頻度が高かった。これらの結果は「管理差→植生構造の変化→直翅類群集の再構成」という因果的枠組みと一致する。結論として、わずか30-40mの空間スケールでも管理の違いが生物群集に即時的に反映されることを示し、未刈りパッチの維持や刈り取り頻度の段階的設定など局所管理を用いた保全戦略の有効性を示唆する。</p>

